

徳山
ユネスコ通信



発行所
徳山ユネスコ協会
周南市岐山通 1-1
周南市生涯学習課内
電話 22-8621
E-mail: ed-shogai@city.shunan.lg.jp

印刷所 (有)精文社



徳山ユネスコ協会新会長
師井 弘



この度八代目の徳山ユネスコ協会会長に選任されました師井弘でございます。会長就任にあたりご挨拶申し上げます。

この度長年会長を務められ、ユネスコ協会をご指導いただいた原田茂さんが退任されました。原田さんには9年間の長きに及ぶ当協会の旗振り役として、大変なご活躍をいただきました。ここに皆さんと共に感謝の誠をささげたいと思います。本当にありがとうございます。今後とも徳山ユネスコ協会

の歩みを見届けて下さい。

さて昨今の世界状況は様々な課題に直面しています。民族や宗教の対立による悲しい戦争、それを助長させる貧困・飢餓・難民問題など報道は枚挙に暇がありません。国内においても今年1月の能登半島地震等の自然災害に見舞われています。

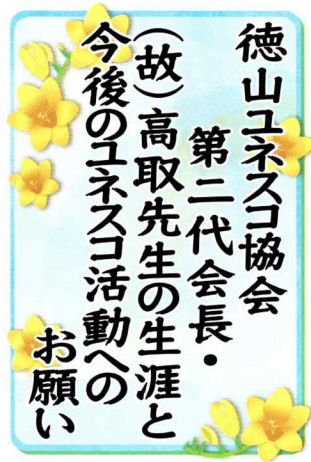
こうした時に、徳山ユネスコ協会は国際的視野に立ち、身近な日々諸々の活動のなかで、ユネスコ憲章の前文に掲げる「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という理念に基づき、教育や文化を通じて持続可能な社会実現に向けて、いろいろな取り組みを行なっています。

世界の平和を願う「平和の鐘を鳴らそう」や、国際交流・国際理解を目的に「英会話教室」の開催、青少年の健全育成を目的に「いなかの学校」、世界寺子屋運動の「書きそんじハガキ・未使用切手収集」、そして国内外のさまざまな災害支援としての「募金運動」を行っています。

本年度も昨年同様の事業を推進し、新たに一般財団法人周南観光コンベンション協会との共催で「平和の鳥スピ

ーチコンテスト」や、人権推進との共催事業「人権オープンシアター」、周南公立大学の起業部が行う「子ども食堂」の後援など他団体との協力関係を築く新しい企画に力をいれていきたいと思えます。

皆様の力強い支援を得ながら、共に楽しいユネスコ活動にしたいと思えますのでよろしくお願い致します。



徳山ユネスコ協会前会長
原田 茂



徳山ユネスコ協会第二代会長・故高取利雄先生は岡山県のご出身で、徳山とのご縁は旧海軍燃料廠医務部長兼海軍共済病院長を勤められ、戦後、海軍病院は徳山中央病院となり、先生は初代病院長とされました。混乱した戦中・戦後から、平成に至る半世紀を越える永きに渡り、多くの地域住民の病を癒して来られた先生で、小生は幼い

頃より、身近に感じて参りました。先生は医療業務でご多忙な中、さらに地域の教育・文化などの発展のために幅広いご貢献をされましたことに頭のさがる思いでした。先生が当地に開業される時に、我が家のお向かいに住まれたことが、小生の人生の大きな転機となりました。先生の熱心なお誘いがなければ、きっと小生はユネスコとすれ違っていたことでしょう。先生が我が家の向いに住んでおられる間は、ユネスコ会員でいようと思いつけてきました。しかし、いざ先生が、ご逝去されてみると、ユネスコの精神が、小生を離さないような気持ちになっていました。さらに先生は、ご自分の医者としての、跡継ぎにあたる後任に野間先生という、愛媛県出身で、東京大学医学部ご出身の名医を、迎えられたのです。このような優秀な先生方が一生を過される徳山という所は、本当に有難い所だと感謝の気持ちでいっぱいになったことを思い出します。そこで今、私どもに求められることは、常に、老若男女が力を合わせられる組織に向けた努力が、高取先生へのお返しになることだと思います。昨秋の長門における県大会では徳山の皆様が、その点では第一位のご参加だったと確信致しました。世の中は決して、楽な方向には向ってはおりませんが、過去の皆様のご努力に少しでもお返しができることをお祈りし、私のお願いのご報告とさせていただきます。

国際クリスマスお茶会

昨年師走、会員相互の親睦と国際交流を目的にクリスマス茶会を企画したところ、市内在住の外国語指導助手、ユネスコスクールの皆様をはじめ160名余の方々の参加を得て、盛會裡に挙行することが出来ましたことを報告します。茶道とユネスコという普段あまり行き来が有るように思えない存在が「和み」という空間を見事に演出し、有意義な時間を過ごすことが出来たことは大変な収穫でした。



茶会の準備段階から当日のお手前並びに接遇における女性部、茶道会の皆様のぬみない運びに加え、市内の学校で茶道を修めておられる学生、生徒さんのご協力に心から感謝申し上げます。

参加者同士、お茶席の前後に卓を囲み膝つき合わせて談笑される光景がとても印象的な一日でした。あいにくの下での開催にも

かわらざ、ご協力いたただいた英会話教室の皆様、ユネスコ協会関係者並びに役員の皆様、寒中本当にありがとうございます。とうございました。



英会話教室

国際平和は

コミュニケーションから

尾添 真治

仕事は嫌いじゃなかったが、自宅と会社の3kmを往復するだけの毎日に不安を覚え、定年迫る2年ほど前、思い切ってユネスコ英会話に入会した。しかし、コミュニケーションが苦手、ましてや人前で毎回トピックスを英語で披露する当教室独特のスタイルは正直苦痛だった。(その昔、義妹はこれが理由で早々に退会したらしい)しかし、遅まきながらコミュニケーションを鍛えて交流の輪を広げたい想い、日本の侘び寂びの世界観を外国人に伝えたいと言う夢想から、時々さぼることはあるが、今日まで何とか続いている。Cクラスでは、

有志の尽力によりクラスの集いが定期的に開催され、グラスを傾けながら親睦を深めており、新メンバーでも溶け込みやすい環境がある。そのお陰もあり気のせいかも知れないが、苦痛だったトピックスの発表が快感に変わる予感すらある。国際平和はコミュニケーションから。皆で楽しく英会話学習を継続したいものだ。

女性部姉妹都市交流

国際交流へ一役

8月2日、姉妹都市オランダ・エムステルタ市の青少年訪問団をおもてなしするため、女性部と晃英館茶道部の生徒さんにもお手伝い頂き、学び・交流プラザでお茶会を開催致しました。



浴衣に身を包んだ22名のオランダの方々とホームステイ先の御家族に、薄茶点前を披露しながら和菓子とお抹茶を召し上がっ

ていただきました。あちらこちらで笑顔溢れるとても楽しい会となりました。日本の素晴らしい文化に触れ、印象深い良い思い出になっていければ嬉しいです。今後もちょうとした交流で更なる友好の架け橋になっていければと思います。



世界寺子屋運動・募金活動

書きそんじハガキ・未使用切手収集事業等に

ついて

ユネスコ協会の一つの大きい事業として、この運動は永く継続してまいりましたが、今年は特別に沢山の心暖いご協力をいただき、驚きと感謝で胸いっぱいになりました。一番驚かされたのは、金種別に分けられた硬貨がぎっしりと入ったダンボール箱が数個届いた事です。ある企業のオーナーさんが、ユネスコ活動に役立ててとのお気持ちで届け



書きそんじハガキ 1,926枚
未使用切手 689枚
未使用テレホンカード 11枚
合計 144,434円

て下さいました。
又、周南フィルハーモニー管弦楽団から「第一九回定期演奏会」の収益金からも現金が届きました。昨年にかけてのご協力金に感謝いたします。
周南市内の小中学校からも、生徒さんやご家族のご支援も合わせて多大の書きそんじハガキ・未使用切手・現金が届きました。太華中学校は「ユネスコスクール」の活動として毎年8月15日の「平和の鐘を鳴らそう」の行事にも積極的に参加して下さっています。ありがとうございます。
若い日からこの様に、世界平和を祈り、社会貢献・SDGs等に関心を持っていたいただける事を嬉しく思います。ご協力いただいた総ての皆様に、心より感謝申し上げます。



「平和の鐘を鳴らそう」に参加して
周南市立太華中学校 新3年 垣田 奈甫
「私たちが生きている今の時代、なんて平和なんだろう。」これは、私が『平和の鐘を鳴らそう』に参加して一番最初に思ったことです。私は今まで平和記念館などの施設を訪れたことがなく、戦争や平和について深く考える機会がありませんでした。しかし、私の住んでいる周南市、大津島も太平洋戦争では人間魚雷の発射訓練基地として使われていたことを祖父から聞き、当時の様子や人々の思いなどを知りたいと思ひ、この活動に参加しました。遺書や遺品、人間魚雷「回天」を初めて見た時は心が苦しくなりました。また、執筆からは生きたい、という強い思いや、家族や友達への感謝の気持ち

平和の鐘を鳴らそう
に参加して

ちが感じられました。そして実際に使われた訓練基地の魚雷発射試験場跡や、回天運搬用のレールの跡などは当時の様子や物語っていました。今回の活動で平和の鐘を鳴らしたり平和宣言を唱和したりしたことは戦争の無い時代に生まれました。私にとつて、一つ一つが平和を考えていくきっかけとなりました。二度と戦争は起こしてはならない、という思いをしっかりと心に刻み、引き継いでいくとともに、毎日幸せに暮らせていることに感謝して一日一日を大切に生きていきたいと思いました。



毎年恒例のいなかの学校ですが、参加者は募集を開始するとすぐに定員になってしまふほどの大人気事業です。夏にこどもたち30人が、自然の中でツリークライミングをしたり、錦川でラフトボートに乗って遊んだり、川に飛び込んだり、森の中でアーチェリーを楽しんだりと満喫しています。こどもも哲学というプログラムは、自然の中で不思議なことや、答えのない問いを探し、思考を深め、みんなの前で考えを

いなかの学校2023

後日、連盟に送金いたしました。
今回の募金は、昨年2月に起きたトルコ・シリア大地震復興支援の義援金について2回となります。
子供たちの明るい笑顔が戻ることを願っています。」と話されました。

徳山プロバスケットボール部
能登半島地震に募金
ロータリクラブのOBとして、地域社会に関心をもち日々社会活動を行っている徳山プロバスケットボール部(奥田宗博会長・会員24名)から、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が行っている能登半島地震「災害子ども教育支援募金」活動にと10万円の募金が寄せられました。奥田会長は「毎日のように報道される被災地の子供たちの様子を目にし、心を痛めている。傍観することができない。一日も早い復興を願い、子供たちの明るい笑顔が戻ることを願っています。」と話されました。



発話する。ほかの人はしっかりと耳を傾けるといふ体験です。



泊まるだけでもすつかり仲良くないつてしまします。



鳴らそう」には、

周南市立太華中学校が中国ブロックESD活動で顕彰

昨年6月24日に開催された、日本ユネスコ協会連盟主催の「子どもに寄り添う持続可能な社会づくり」をテーマに「2023年度中国ブロック・ユネスコ活動研究会」の席で表彰され、太華中3年生・ボランティア委員長山内瑠夏さんが代表で受賞しました。

第70回 山口県ユネスコ大会で師井弘副会長表彰される

令和5年10月29日長門市で開催された大会の席で、徳山ユネスコ協会の理事・副会長として、長年の活動が認められ、県ユネスコ連絡協議会功労者として、表彰されました。この大会には徳山から17名が参加しました。



クライナの現況について話され、また民族楽器バンドウクラで、ウクライナ民謡を演奏され、平和の尊さを考えました。

令和6年度能登半島地震「災害子ども教育支援募金」ご協力をお願い

今年1月1日に発生した能登半島地震は、最大震度7と、各方面に甚大な

催されます。あつという間に時間は過ぎていきますが、こどもたちの心にはいつまでも貴重な体験として残っていることでしょう。

生徒の関心も高く、毎年20名近い生徒が参加し、ユネスコ憲章を唱和し平和の鐘を打ち、世界の平和を祈っています。

編集後記

令和5年度は、周南市の姉妹都市エームデルタ市(オランダ)の青少年訪問団をお茶会でもてなし、及び国際クリスマスお茶会等、日本の素晴らしい文化に触れていただく事業を開催することができました。

被害をもたらしました。今回の地震で、学校施設の損壊だけでも575棟にのぼり、小・中・高等学校あわせて100校以上が休校となっており、被害の大きい地域では学校再開の見通しが立っていません。